

企業参入による取組事例 「島根県隠岐の島町」

おきのしまちょう

1. 地域農業の状況

- 隠岐の島町は、島根半島から北東約80kmの海上に位置し、隠岐諸島中最大の島である。島の外周は151km、面積は242.95km²で、面積の約80%を森林が占めている。気候は、近海を流れる対馬暖流の影響を受け、夏冬の気温差の少ない海洋性気候で、厳寒期を除き通年温暖である。



- 主な作物は、主食用稲、そば、豆類、飼料作物（WCS用稲、牧草等）である。
- 隠岐の島町の農家数は919戸。農外参入企業は6社あり、すべて建設業者。認定農業者は21事業者。
- 耕作放棄地の解消に向けて、農業委員会は、利用意向調査を実施しており、この調査結果を参考に、地域の中心的担い手へ耕作放棄地の解消を働きかけている。

耕地面積	685ha	総農家数	919戸
田耕地面積	544ha	自給的農家数	568戸
畑耕地面積	141ha	販売農家数	351戸

資料：耕地面積統計（H26年）、2010年農林業センサス（農林水産省）

2. 耕作放棄地再生利用の取組

取組主体	株式会社だんだん牧場	地区名	原田・加茂・上西・西田
再生面積	2.3ha（放牧面積50ha）	取組年次	平成23年～
作付作物	牧草	販路	自社消費

(1) 取組主体の概要

- 地元大手の建設業者が、新しい事業として、隠岐の島の伝統産業でもある肉用牛繁殖に参入を決め、平成22年に株式会社だんだん牧場を設立、認定農業者となる。
- 事業規模は、放牧面積50ha、肉用牛101頭、従業員4名

(2) 取組内容

- 畜産業に参入する際にネックとなったのが、飼料の確保であった。飼料を全て島外産にすると、経費がかさみ経営に支障をきたすため、いかに飼料の島内自給率を高めるかが鍵であった。町から、耕作放棄地を利用した牧草生産の提案があり、取り組むこととした。町から提供された耕作放棄地に関する情報の中から、水はけ等のほ場条件が比較的良く、牧場から近い耕作放棄地で再生作業を実施した。荒れていた土地でも堆肥等を入れる等すれば、それなりの収穫が見込める。また牧草は管理に手間もかからず、耕作放棄地活用としては向いている。

(3) 今後について

- 飼料の島内自給率をさらに上げていきたいため、今後も耕作放棄地を活用した牧草生産を行う。



活用した支援策

H23～25 耕作放棄地再生利用緊急対策交付金（国）